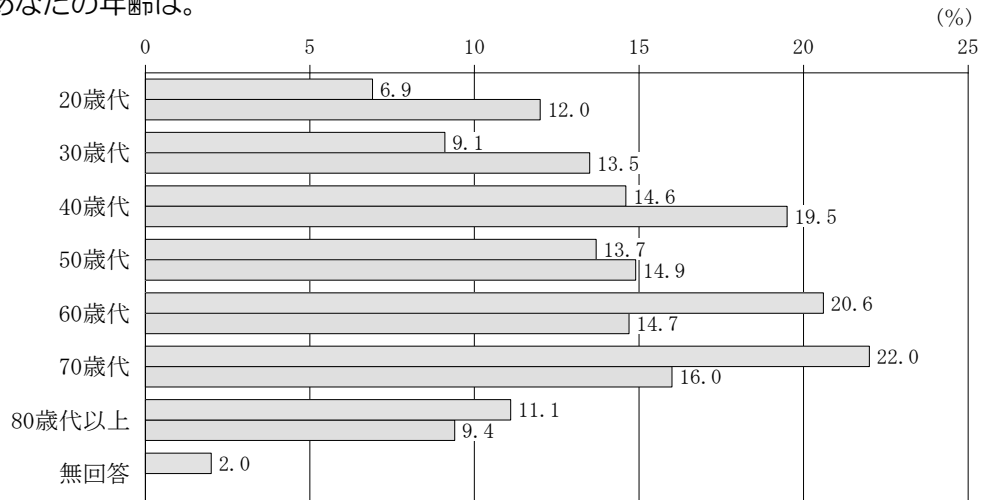


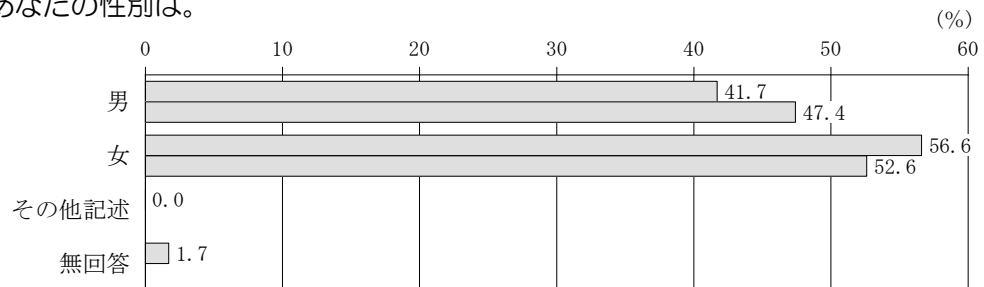
2. 市民調査の集計結果

回答者の属性

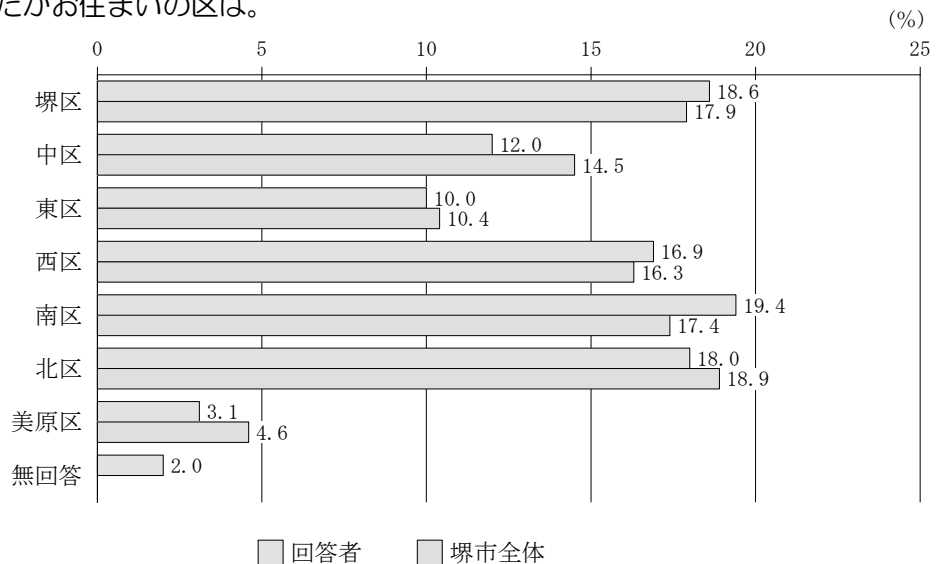
問19-1 あなたの年齢は。



問19-2 あなたの性別は。

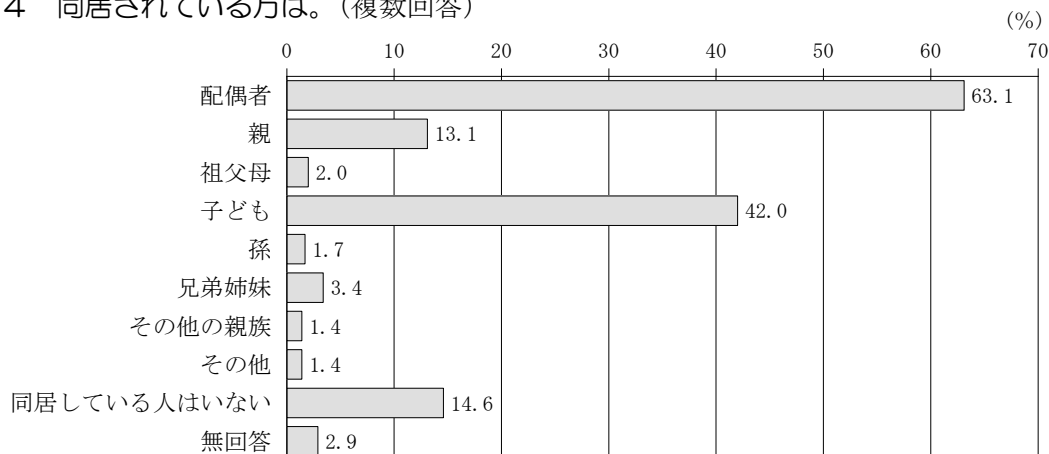


問19-3 あなたがお住まいの区は。



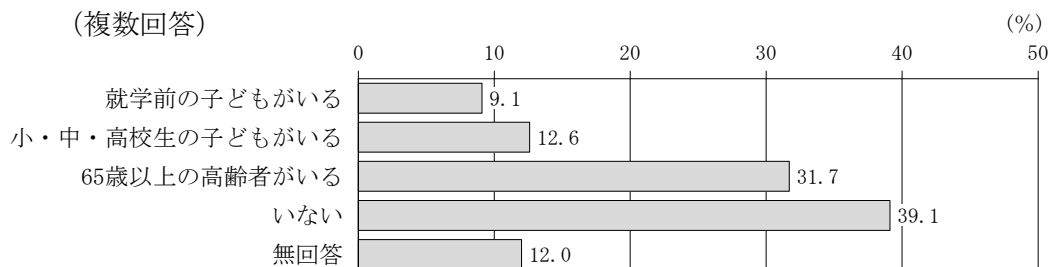
- ・平成30年11月30日現在の堺市人口と比較し、本調査の回答者は年齢別では60歳以上、性別では女性の割合が大きくなっています。
- ・30歳代は女性が81.3%であるなど30～60歳代は女性の割合が大きく、20歳代と70歳代以上は男性の割合が大きくなっています。

問19-4 同居されている方は。(複数回答)



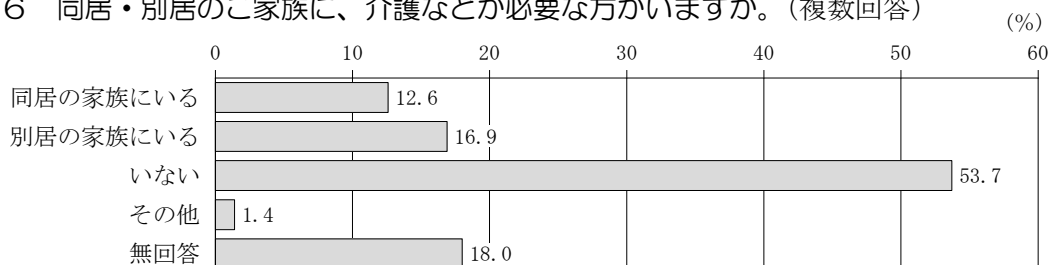
・回答をもとに類型すると、ひとり暮らし世帯 14.6%、夫婦のみの世帯 28.3%、二世帯世帯 42.6%、三世帯世帯 7.4%、その他 4.3%です。

問19-5 同居されているご家族に、18歳未満の子どもや65歳以上の高齢者がいますか。(複数回答)



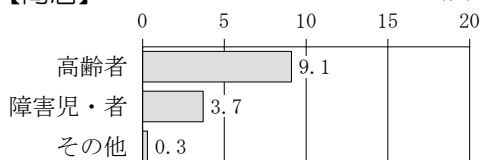
・就学前と小・中・高校生の重複を整理すると、18歳未満の子どもがいる世帯は18.3%です。

問19-6 同居・別居のご家族に、介護などが必要な方がいますか。(複数回答)

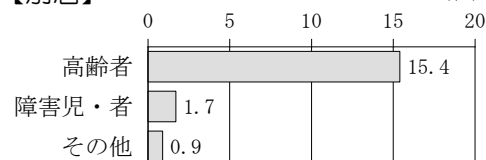


どのような方ですか

【同居】

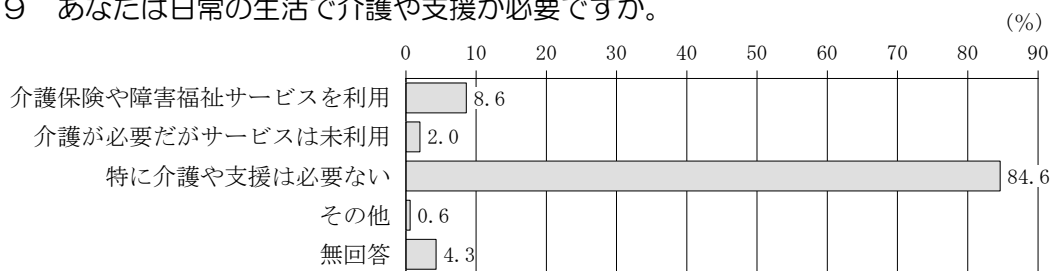


【別居】



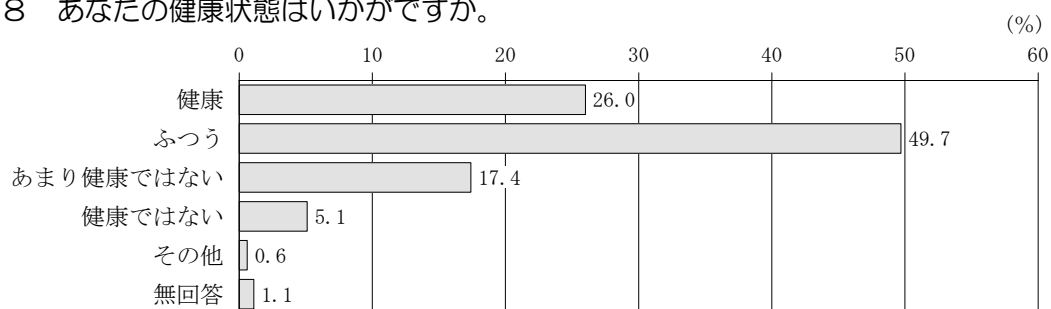
・同居と別居の重複を整理すると、家族に介護などが必要な方がいる人は26.8%です(回答者自身が介護などが必要な場合も含みます)。

問19-9 あなたは日常の生活で介護や支援が必要ですか。



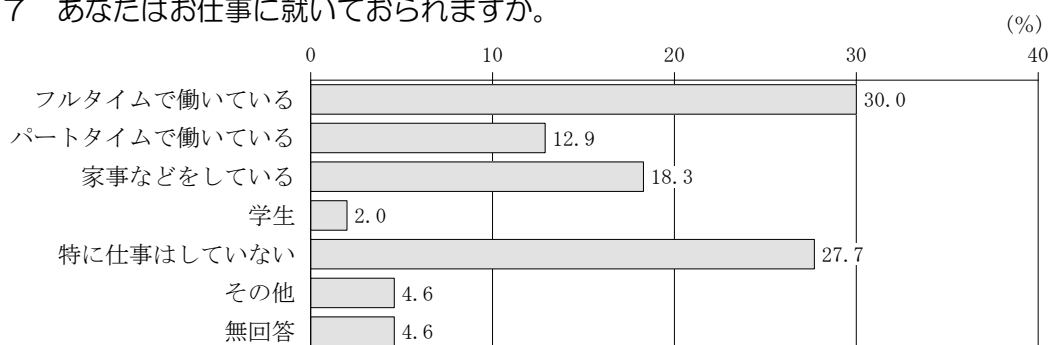
- ・自身が介護や支援が必要な回答者は10.6%で、うち2割近くは、介護が必要だがサービスは利用していないと答えています。

問19-8 あなたの健康状態はいかがですか。



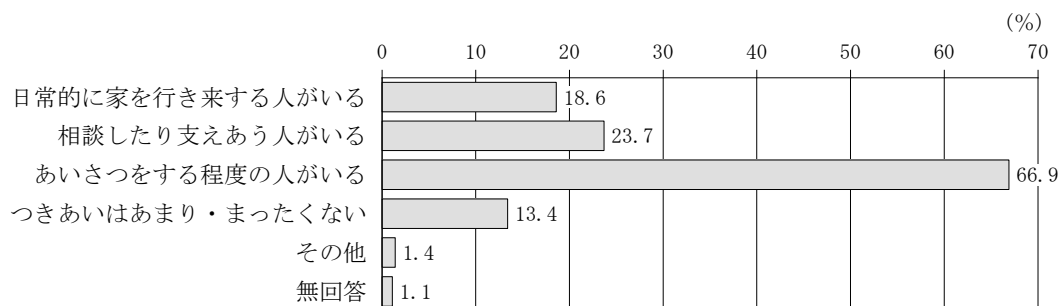
- ・4分の3は健康状態に特に問題はありませんが、その3分の2は「ふつう」と答えています。

問19-7 あなたはお仕事に就いておられますか。



- ・有給の仕事に就いている人は42.9%です。

問19-10 あなたは、近所の人とどれくらいのおつきあいがありますか。(複数回答)

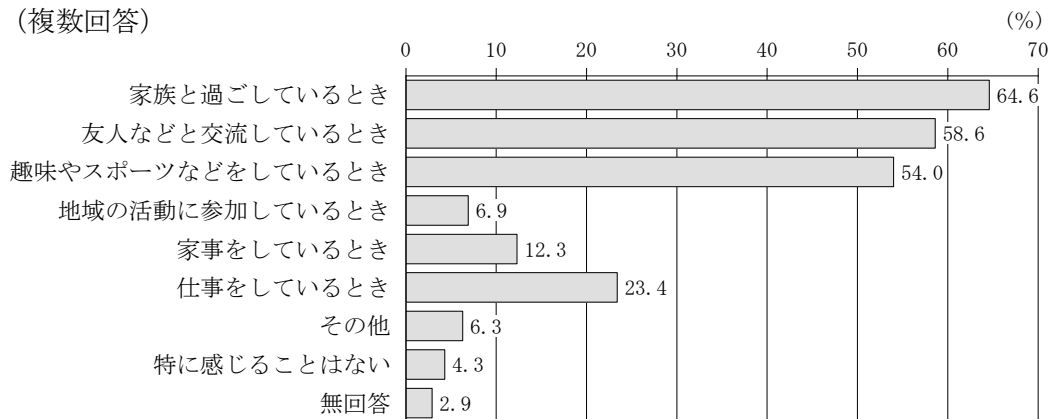


- ・複数回答による重複を整理すると、家を行き来したり相談するなどの一定の親しいつきあいがある人が31.4%、あいさつ程度のみの人が52.9%、つきあいがほとんど・まったくない人が13.4%です。

日常生活での「楽しみ」や「困りごと」について

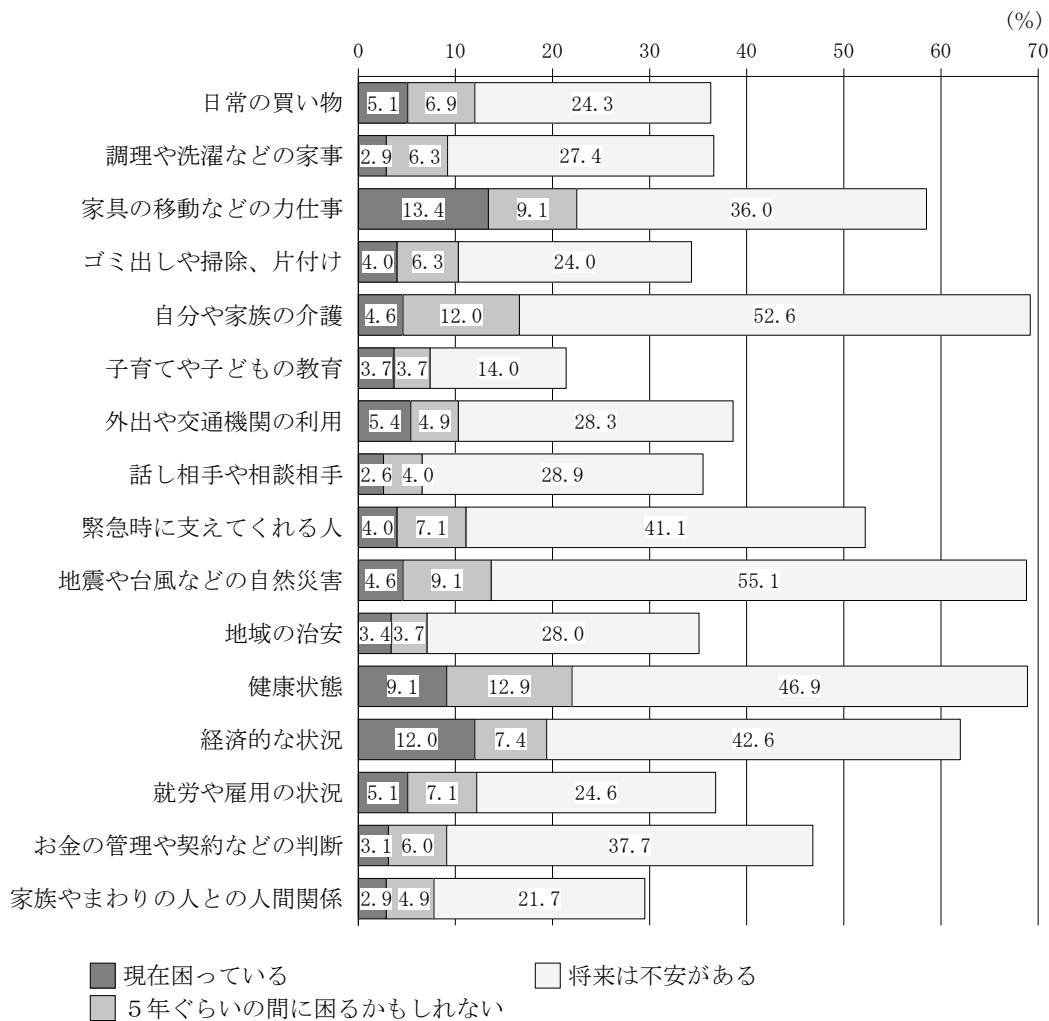
問1 あなたは日常生活のなかで、どのようなときに楽しさや生きがいを感じますか。

(複数回答)



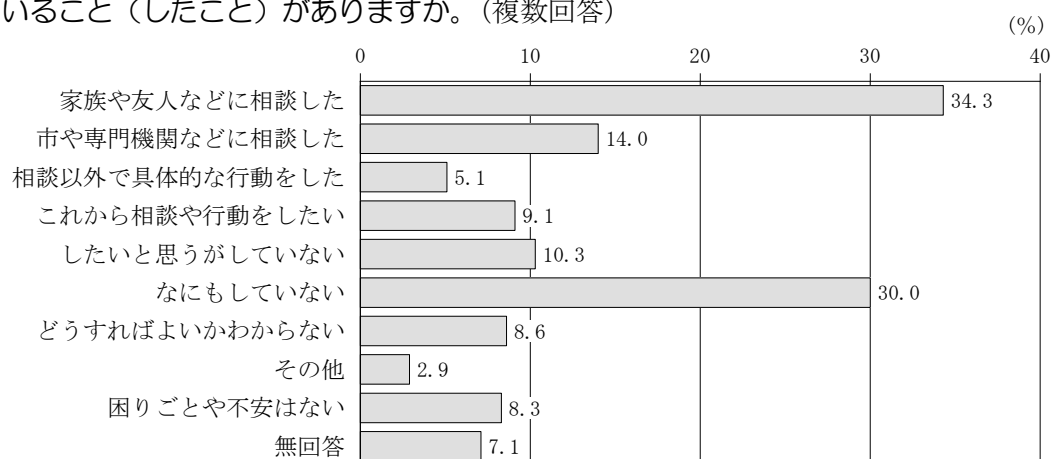
- ・楽しさや生きがいを「特に感じることはない」と答えた人は4.3%で、年齢別で大きな差はみられませんが、80歳以上は無回答が10.3%と大きめです。
- ・「地域の活動に参加しているとき」をあげた人は6.9%にとどまり、特に40歳代以下は割合が小さくなっています。

問2 あなたは日常生活に関する以下のことで、困ったり不安に感じていることがありますか。



- ・現在、困っていることとして多くの人があげたのは「家具の移動などの力仕事」、「経済的な状況」、「健康状態」などで、「経済的な状況」は20歳代が33.3%、30歳代が18.8%、80歳代以上が15.4%と割合が大きくなっています。
- ・5年ぐらいの間に困るかもしれないこととしては、「健康状態」に次いで、「自分や家族の介護」が多く、50歳代は18.8%と最も割合が大きくなっています。
- ・将来は不安があることとしては「地震や台風などの災害」が最も多く、次いで「自分や家族の介護」となっています。
- ・本調査の回答者は高齢の人の割合が大きく、全体では「子育てや子どもの教育」をあげた人は多くありませんが、20～40歳代では割合が大きくなっています。

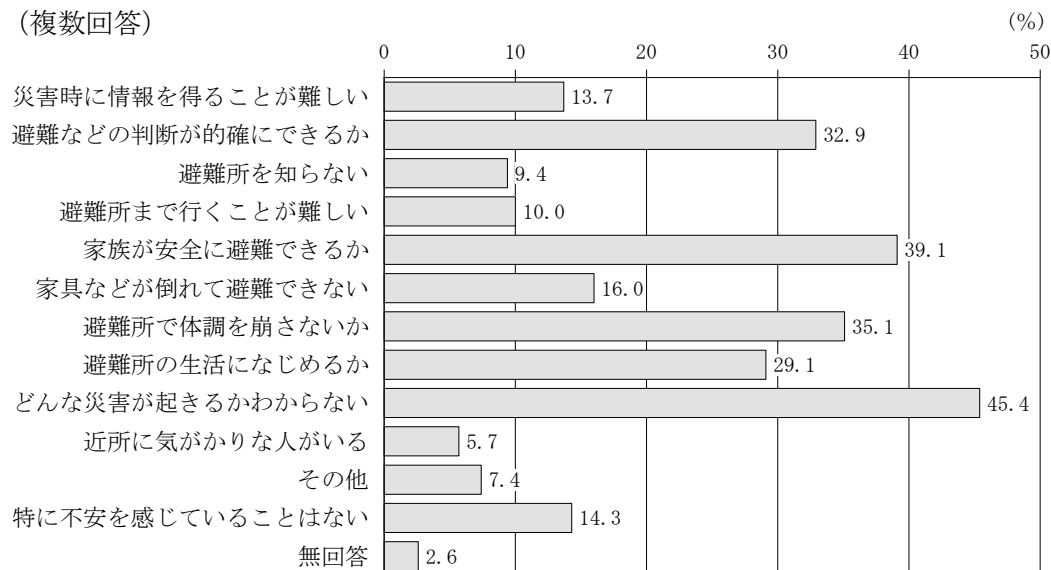
問3 問2でお聞きしたような日常生活の困りごとや不安を解決していくために、あなたがしていること（したこと）がありますか。（複数回答）



- ・「市や専門機関などに相談した」人は14.0%ですが、問2で介護で現在困っていると答えた人は50.0%、子育てで困っている人では46.2%となっています。一方、子育てに困っている人では23.1%が「どうすればよいかわからない」と答えています。

問4 地震や台風などの災害時の避難に関して、不安を感じていることがありますか。

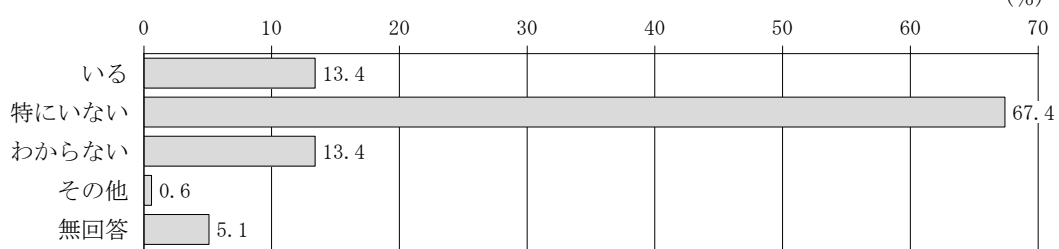
（複数回答）



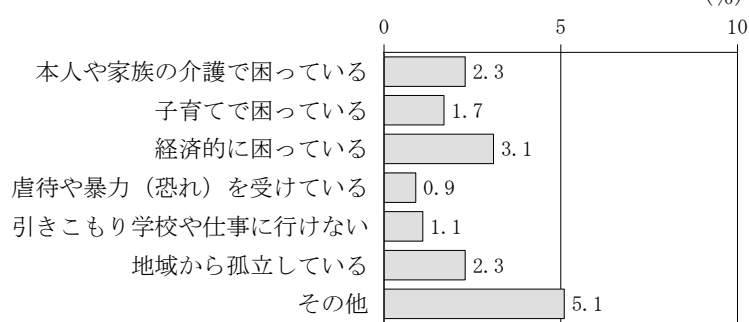
- ・「特に不安を感じることはない」は14.3%で、多くの人がさまざまな不安を感じていますが、「どんな災害が起きるかわからない」という漠然とした不安が最も多くあげられています。
- ・介護や支援が必要な人は、「避難所で体調を崩さないか」が53.3%であることをはじめ、よ

り多く不安があげられています。

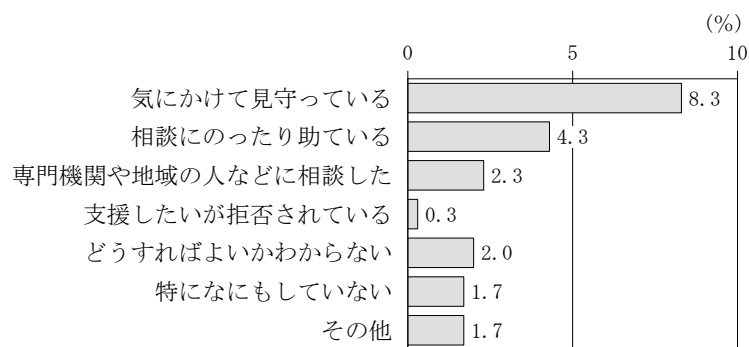
問5 あなたは、家族や親族以外で、地域で気がかりな人がいますか。



気がかりなのは、どのような方ですか。(複数回答)

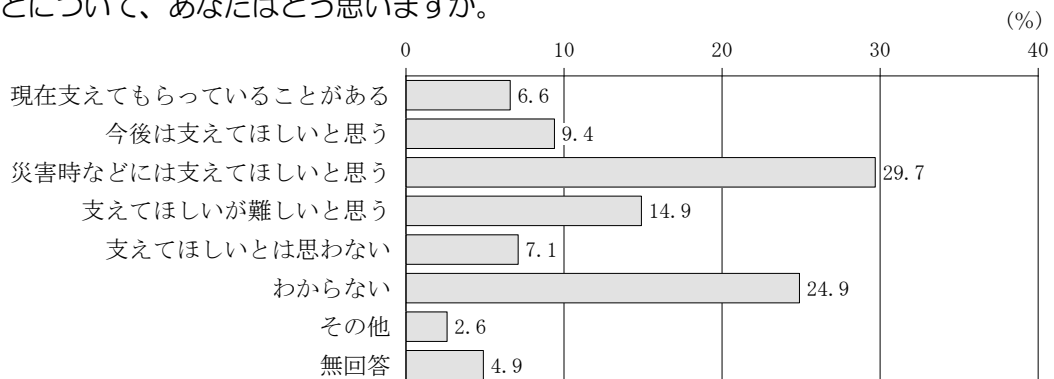


その人に対して、あなたはなにかしていますか(しましたか)。(複数回答)



- ・7人に1人弱が気がかりな人が「いる」と答えており、地域福祉に関するさまざまな課題が把握され、見守りや相談、専門機関などへのつながりも行われています。

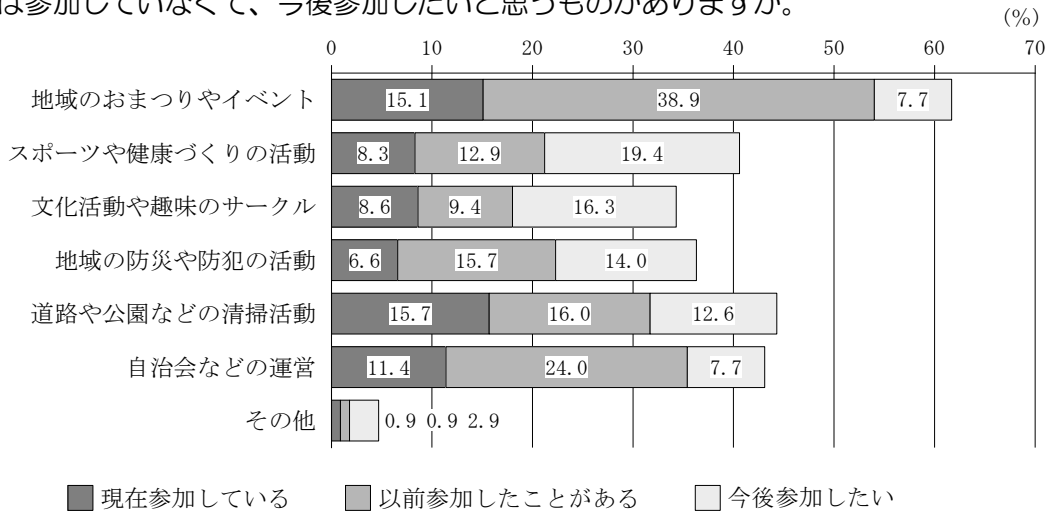
問6 日常生活の困りごとや不安を解決するひとつの方法として、地域の人にも支えてもらうことについて、あなたはどう思いますか。



- ・「支えてほしいとは思わない」人は多くはなく、特に「災害時などには支えてほしいと思う」人が29.7%で、年齢を問わず割合が大きくなっています。

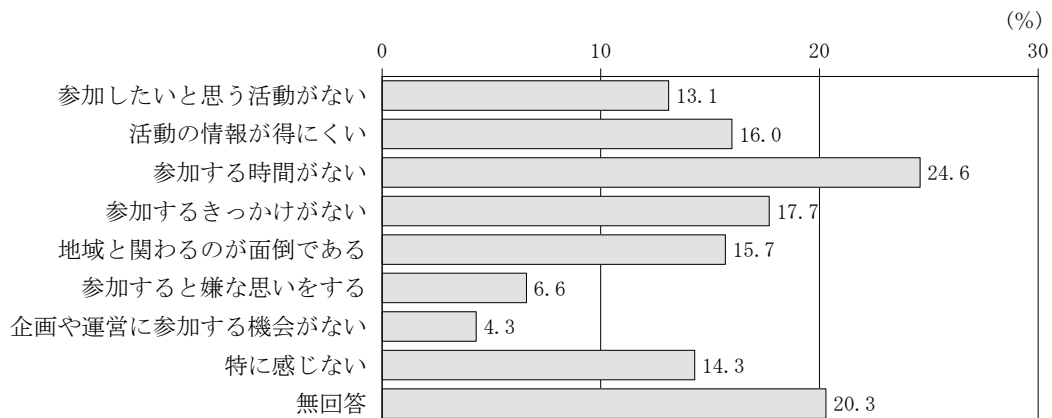
地域との関わりや活動への参加について

問7 あなたは、お住まいの地域のつぎのような活動に参加したことがありますか。また、現在は参加してなくて、今後参加したいと思うものがありますか。



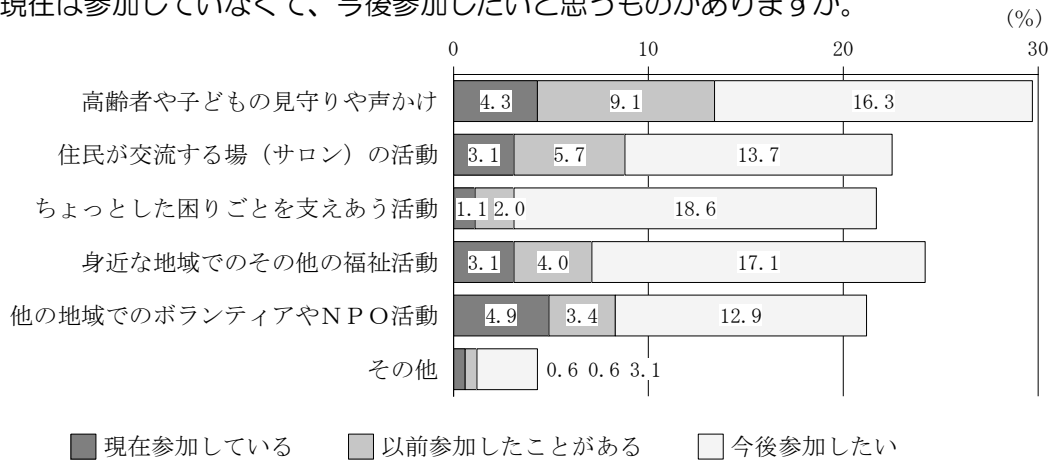
- ・ 選択肢としてあげた活動をあわせてみると、いずれかに現在参加している人は30.3%、以前参加したことがある人は34.6%、これまで参加したことはないが今後参加したい人が11.7%です。
- ・ 今後、新たに参加したい活動としては「スポーツや健康づくりの活動」19.4%、「文化活動や趣味のサークル」16.3%などが多くあげられています。また、「自治会、女性会、老人会、子ども会などの運営」も7.7%があげており、30歳代が18.6%、20歳代が12.5%と割合が大きめです。

問8 あなたは、地域の活動への参加について、気になることがありますか。(複数回答)



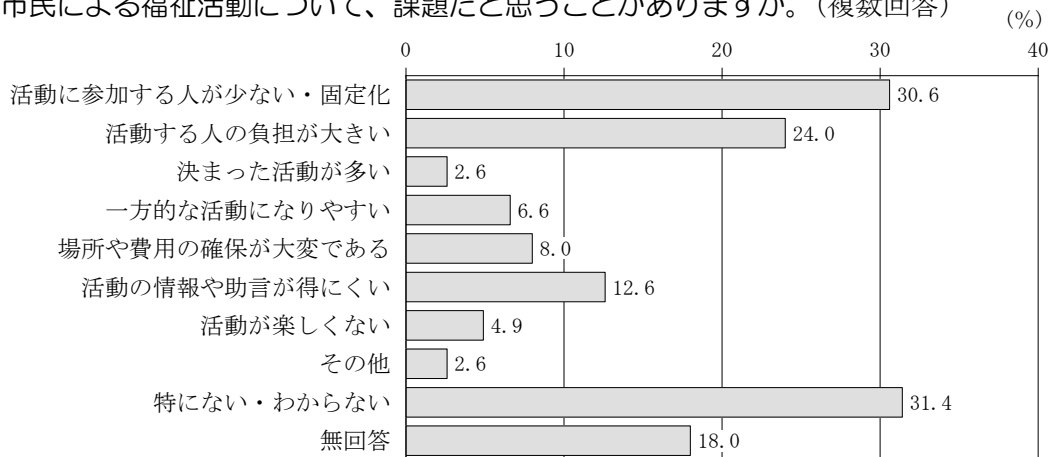
- ・ 「参加する時間がない」ことに加え、「参加するきっかけがない」、「活動の情報が得にくい」という、活動にうまくつながらないことが多くあげられています。
- ・ 一方、「地域を関わるのが面倒」、「地域の活動で嫌な思いをする」という、地域との関わりをあげた人もいます。

問9 あなたは、お住まいの地域以外での活動も含め、福祉の活動に参加していますか。また、現在は参加してなくて、今後参加したいと思うものがありますか。



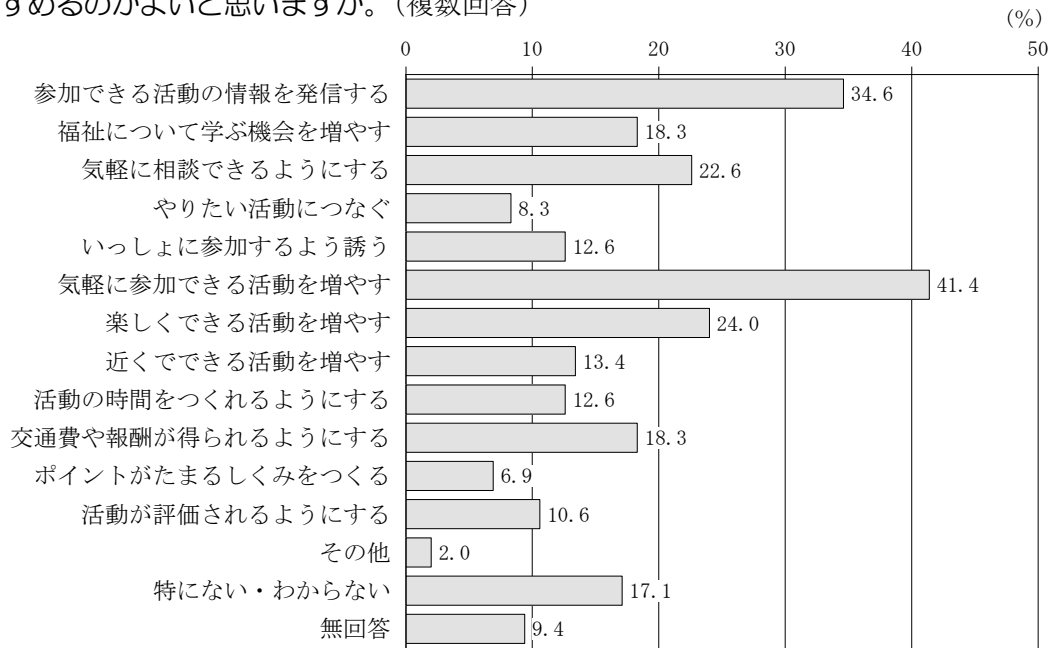
- ・選択肢としてあげた活動をあわせてみると、いずれかに現在参加している人は10.6%、以前参加したことがある人は13.7%、これまで参加したことはないが今後参加したい人が21.7%で、「困りごとを支えあう活動」18.6%をはじめ、いずれの活動も、現在参加している人よりもかなり多くの人が今後参加したいという意向を示しています。

問10 市民による福祉活動について、課題だと思いませんか。（複数回答）



- ・「活動に参加する人が少ない」ことや「活動する人の負担が大きい」という状況は比較的多くの人に認識されています。一方、「特にない・わからない」と無回答をあわせると約5割と多くなっています。
- ・「活動の情報や助言が得にくい」ことは、問9で「他の地域でのボランティア活動」に今後参加したい人と答えた人の37.3%があげており、活動に参加するうえでの課題にもなっています。

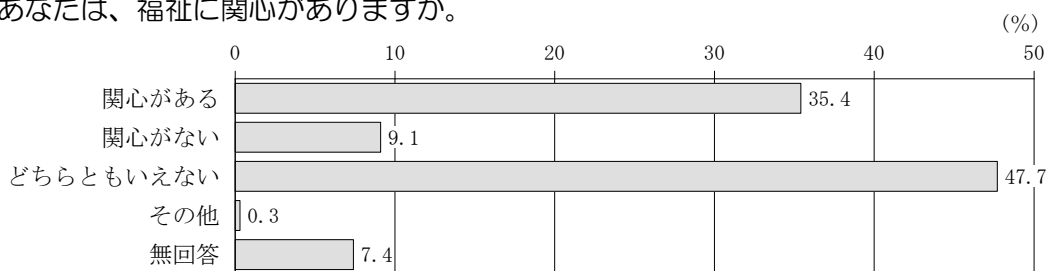
問11 あなたは、福祉活動に参加する人を増やすには、どのような取り組みを特に優先的にすすめるのがよいと思いますか。(複数回答)



- ・「気軽に参加できる活動を増やす」が最も多く、「楽しくできる活動を増やす」、「近くでできる活動を増やす」など、参加しやすい活動を広げていくことが多くあげられています。
- ・あわせて、「参加できる活動の情報を発信する」、「気軽に相談できるようにする」、「福祉について学ぶ機会を増やす」など、参加のきっかけやつなぐ取り組みも多くあげられています。
- ・「交通費や報酬が得られるようにする」は全体では18.3%ですが、20歳代、30歳代はいずれも37.5%と割合が大きくなっており、20歳代は「活動が評価されるようにする」も20.8%です。

福祉に関する考えについて

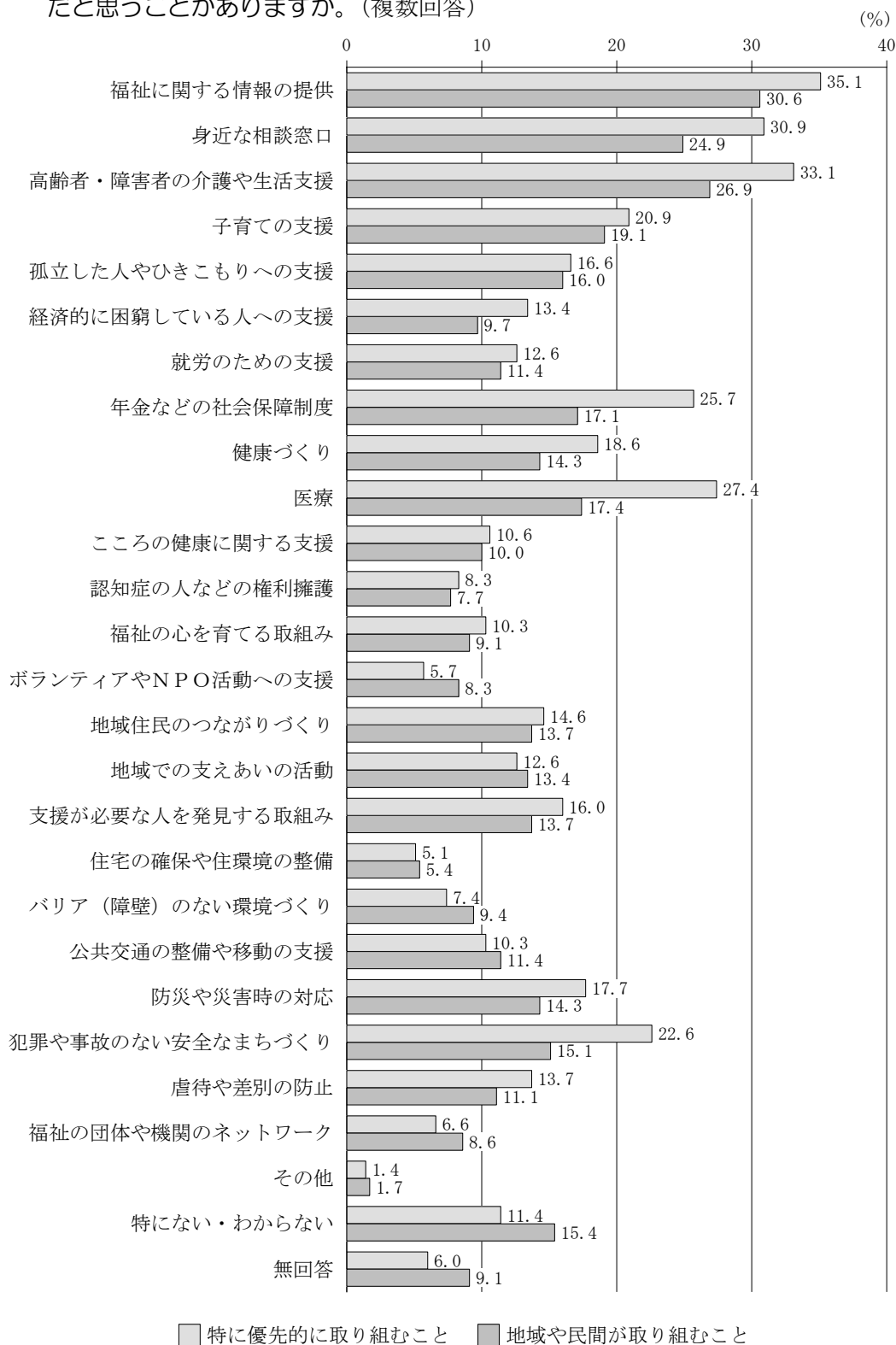
問12 あなたは、福祉に関心がありますか。



- ・本調査の回答者では、福祉に「関心がない」と答えた人は多くはありませんが、「どちらともいえない」人が約半数となっています。

問13-1 あなたは、地域の福祉を充実するために、どのようなことに特に優先的に取り組むべきだと思いますか。(複数回答)

問13-2 上記の問13-1の取り組みで、地域や民間の団体・事業者などが積極的に取り組むべきだと思うことがありますか。(複数回答)

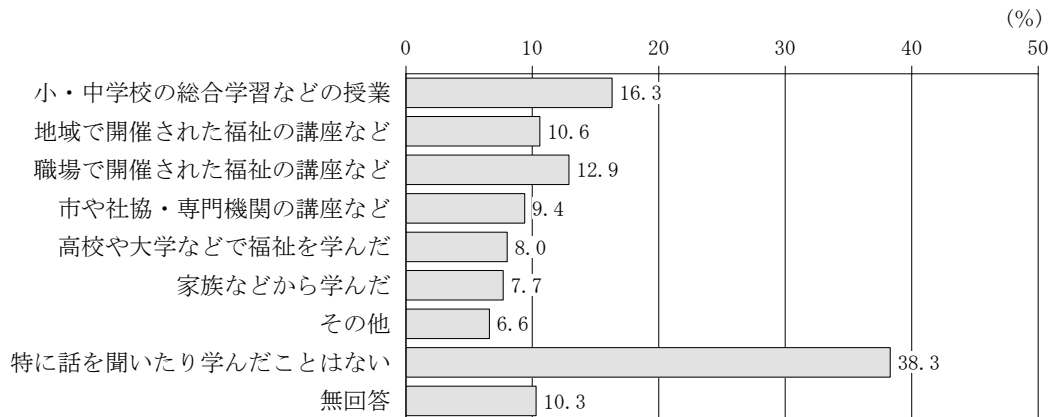


・【優先的に取り組むべきこと】としては、「福祉に関する情報の提供」が最も多くあげられ、「身近な相談窓口」とともに、福祉の支援にアクセスしやすくすることが、「高齢者・障害者の介護や生活支援」、「医療」、「年金などの社会保障制度」、「子育ての支援」などの具体的な支

援とともに重視されていることが示されています。

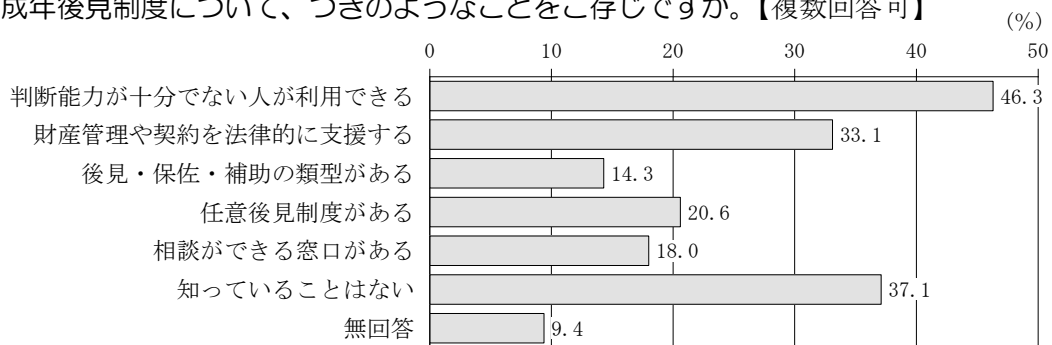
- ・優先的に取り組むべきことは年齢によっても違いがあり、30歳代では「子育ての支援」を6割以上の方があげて第1位となっています。
- ・【地域や民間の団体・事業者などが積極的に取り組むこと】は、【優先的に取り組むべきこと】と同じ回答をした人も多く、明確に区別して回答していただくことは難しい面もあったと思われれますが、「地域での支えあいの活動」や「ボランティアやNPO活動への支援」などは【優先的に取り組むべきこと】としてよりも多くの人のあげ、地域の取り組みとして一定の認識がされているようです。

問14 あなたは、どこかで福祉について話を聞いたり、学んだことがありますか。(複数回答)



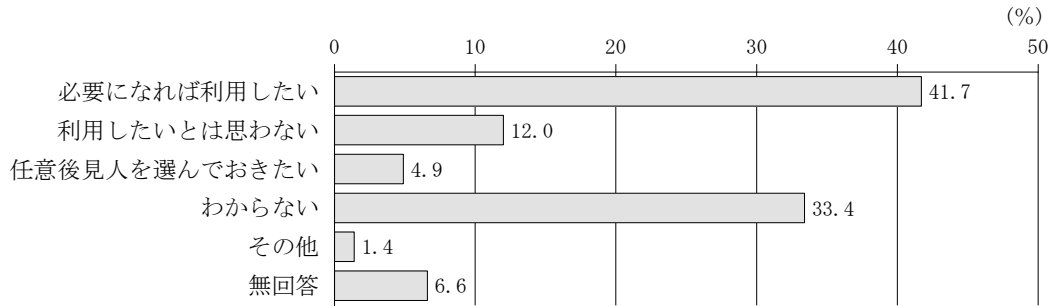
- ・「小・中学校の総合学習などの授業」は、20歳代は66.7%、30歳代も34.4%の方があげており、学校での福祉教育が広がってきていることが示されています。また、「職場で開催された福祉の講座など」も1割以上の方が受けています。

問15 成年後見制度について、つぎのようなことをご存じですか。【複数回答可】



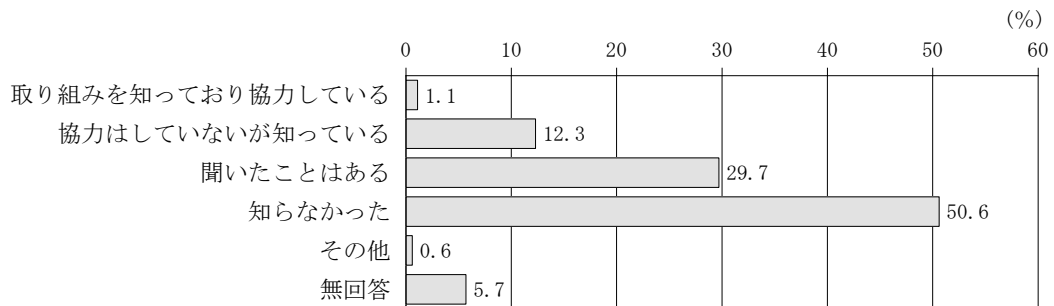
- ・成年後見制度の内容に関する5つの選択肢について、「判断能力が不十分な人が利用できる」は半数近い人が知っているのをはじめ、制度への認知は一定広がってきていることが伺えますが、「相談できる窓口がある」ことを知っている人は2割弱にとどまっています。

問16 あなたは支援が必要になったときには、成年後見制度を利用したいと思いますか。



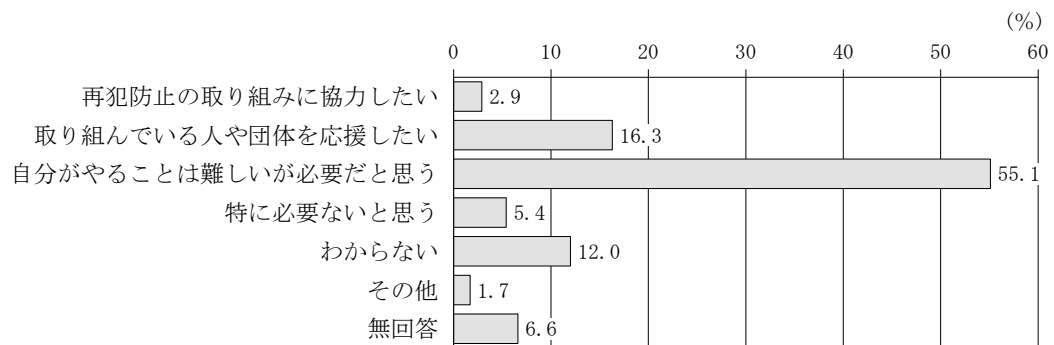
- ・ 4割以上の人が「必要になれば利用したい」と答え、これに加えて4.9%の人は「任意後見人を選んでおきたい」と答えています。特に40歳代以下では、6～7割程度の人が利用意向を示しています。
- ・ 「利用したいとは思わない」人は12.0%ですが、60歳代では23.6%と割合が大きめです。

問17 あなたは、こうした（再犯防止の）取り組みがすすめられていることをご存じでしたか。



- ・ 再犯防止法が施行され、取り組みがすすめられていることを説明したうえで、認知状況をたずねました。「聞いたことはある」という程度の人が多いものの、4割以上の人は一応知っていると答えています。ただし、20歳代は83.3%、30歳代は93.8%が「知らなかった」と答えており、年齢によって違いがあります。

問18 あなたは、再犯防止の取り組みをすすめることについて、どのように思いますか。



- ・ 多く的人是取り組みの必要性を支持しており、「再犯防止の取り組みに協力したい」と「取り組んでいる人や団体を応援したい」人をあわせると2割近くになります。再犯防止の取り組みが「特に必要ない」と答えた人は多くありませんが、20歳代は16.7%と割合が大きめです。